

宮城の教室でつくられた

# 文学作品の読みの授業

宮城国語の授業研究会編

## まえがき

「すべての子どもたちに文学作品の読みの力をつけたい」という思いで、自主的にサークルを作り、そこに授業記録を持ち寄って、検討し、教えたり、教えられたりしてきました。自主的なサークルの自由さと明るさの中で、教師としての情熱と希望をかき立てられてきたような気がします。

そのような思いを何とか広めるために、さまざまな民間教育団体の雑誌が作られてきましたが、今回、それぞれの雑誌に掲載されていた授業記録の主なものを集め「宮城の教室でつくられた・文学作品の読みの授業集」を作成しました。

できるだけ現場の先生方の実践に役立つものという思いで、現在宮城で採択されている教科書にある教材の実践記録と、ぜひ取り上げてみてほしい教材の実践を集めました。また、できるだけ多くの実践者の記録をという思いで編集しましたが、紙数の関係でこれまでのたくさんの授業記録のほんの一端しかとることができませんでした。

この実践をきっかけにして、もつとたくさんさんの実践記録や実践研究に触れていただければ幸いです。また、この本の個々の授業記録は決して読みやすいとはいえないかもしれませんが、しかし、じっくり読んでみると、授業者の思いと子どもたちの豊かな感性が伝わってくると思います。ぜひ日々の実践に役立てていただきたいと願っています。

宮城国語の授業研究会代表 齋 藤 章 夫

## 本書でとりあげた作品

低学年

「くじらぐも」(中川李枝子) .....	8
「おおきなかぶ」(A・トルストイ/内田莉莎子訳) .....	15
「ろくべえまつてろよ」(灰谷健次郎) .....	23
「スイミー」(レオ・レオニ/谷川俊太郎訳) .....	28
「お手紙」(アーノルド・ローベル/三木卓訳) .....	42
「かさこじぞう」(岩崎京子) .....	52
「スーホの白い馬」(大塚勇三 再話) .....	62
「名前を見てちょうだい」(あまんきみこ) .....	71
「子ウシの話」(花岡大学) .....	76
「少年と子ダヌキ」(佐々木たづ) .....	84
「えんぴつびな」(長崎源之助) .....	97
「はな」(新美南吉) .....	107

中学年

「サーカスのライオン」(川村たかし)……………126

「手ぶくろをかいに」(新美南吉)……………136

「モチモチの木」(斎藤隆介)……………145

「ごんぎつね」(新美南吉)……………152

「一つの花」(今西祐行)……………167

「夕鶴」(木下順二)……………178

「世界一美しいぼくの村」(小林豊)……………188

「太郎コオロギ」(今西祐行)……………192

「たかの巣取り」(千葉省三)……………197

高学年

「大造じいさんとがん」(椋鳩十)……………206

「ヒロシマのうた」(今西祐行)……………215

「海のいのち」(立松和平)……………224

	「冬のこい」(花岡大学) .....	233
	「あしたの風」(壺井栄) .....	245
	「ぼくのお姉さん」(丘修三) .....	251
	「坂道」(壺井栄) .....	255
<b>メモ</b>		
	ことばをたいせつにして読むつて .....	123
	読み方の中での単語指導 .....	135
	お昼がすぎる <b>と</b> .....	166
	あわせ文の指導 .....	186
	Kさんの学級だより .....	204
	まえがき .....	3
	資料 .....	262
	初出一覧 .....	271
	あとがき .....	272
カット／みやぎぎのりお		

# 低 学 年

## 〈教科書にある作品〉

「くじらぐも」を読む

「おおきなかぶ」を読む —5人の1年生と一緒に—

「おおきなかぶ」の報告を読んで 教材を選び、授業にこだわる

「ろくべえまってるよ」を読む

「ろくべえまってるよ」を書いてある順に読む

「スイミー」を読む

「スイミー」を読む —文と絵を手がかりに読む—

スイミーについて「文をよむこと」と「絵をよむこと」

「お手紙」を読む

授業検討「お手紙」の授業を話し合う

「かさこじぞう」を読む —絵を描くことで心情までを読む—

「スーホの白い馬」を読む

「スーホの白い馬」を読む

「スーホの白い馬」を読む

「スーホの白い馬」の授業検討を通して考える

「名前を見てちょうだい」を読む —一つひとつのことはにこだわって—

## 〈教科書にない作品〉

「子ウシの話」を読む

「少年と子タヌキ」を読む

「少年と子タヌキ」の4の場面を読む

「えんびつびな」を読む

「えんびつびな」を読む

「はな」を読む

「はな」を読む

戸田 慎一	門真 隆	中野 典子	高橋 洋子	菅野 富士雄	本田 良	小林 香保子	斎田 久典	渡部 進	千葉 政典	仙教組 教文部	大河原 静	高橋 洋子	掛川 恵一	千葉 建夫	佐藤 正夫	仙台国語サークル	菅野 富士雄	渡部 進	高橋 洋子	櫻井 芙美子	太田 直子	
115	107	105	97	95	84	76	71	69	67	62	59	52	48	42	39	34	28	25	23	22	15	8

## 「くじらぐも」を読む

太田直子

## 1 はじめに

前回、久しぶりに1年生を受け持った時には、あっという間に1年を終えてしまったように思え、今回はもっと自分なりに納得しながら、授業を進めて行きたいと思ってきました。

クラスは男13名、女15名の28人。男子でじっと椅子に座ってられない子や独り言を言い続ける子がいるが、それを制しようとする子もいたりするなど全体として活発である。運動が好きで、互いに関わっていきこうとする子が多い。

国語のひらがなの指導では「大きなかぶ」で、子どもたちは少しずつ自分の物語文で読みとりをしたのは「大きなかぶ」で、子どもたちは少しずつ自分の考えを言ったりできるようになり、朗読することが好きになってきた。

## 2 作品について

この作品を初めて読んだ時は、私自身があまり楽しめず、子どもたちがこの想像の世界をどれくらい楽しめるのか見当もつかず、声に出して楽しむということでは終わりにしようかと思った。でも、サークルで去年取り組んだ時、子どもたちは文に即して喜んで読んでいた話を聞き、ていねいに取り組んでいこうと思った。

サークルの話し合いでは、次のように話された。

やはり、ことばや文を大切にするのが基本。ことばをやりながら想像を広げていったらよいのではないか。ただ、1年生だから、ずっと同じ調子でいくのではなく何か工夫したい。

主題についても話になり、次のようにまとめてみた。

体操している時、空に突然現れた雲のくじらとの交流で1年2組の子どもたちと先生がくじらに飛び乗り、くじらと一緒に空の旅をうんと楽しんでお話し。

## 3 文やことばをどう取り上げたか（部分の扱いのいくつか）

四じかん目のことです。

一年二くみのこどもたちがたいそうしていると、空に大きなくじらがあらわれました。まつしろいくものくじらです。

〈あらわれる〉

T さっき、体育係が、首をまわしたりストレッチとかしたね。

・（体操をやり始める子がいる。それで皆でやってみる。）

T こんなふう体操している時に？

・ あらわれました。

T 「あらわれる」ってどういうのかな？

・ とつぜん現れる。

・ 急に。

（TTで入っているI先生に現れてもらう。）

・ いなかったのに出てくる。

T いなかったのに、体操していると現れたんだね。なにが？

・ くじらぐも。

・ えっ、違っよ。くじらが現れたんだよ。

・ 大きなくじらが現れました。

T どこに？

- ・ 空に。えっ、海とまちがえたんじゃない。だって海って青いでしょ。
  - ・ 沖繩のほうは黄緑だよ。
  - ・ 海って青いでしょ。さかい目ないよ。
  - ・ 海って青いでしょ。空も青いでしょ。だから。
- T 青い空そこに大きなくじらが現われたんだね。  
(ほんとは雲のくじらだよ。)

〈まっしろい〉

- T まっしろいとしろい(板書)とどう違うかな。
- ・ まっしろいって書いてるよ。
  - ・ まっしろいというのはすんごく白いこと。
  - ・ 色がこいと違うこと。
- T 真っ白い大きなくじらだね。(現れたのは。)

■ 授業後に考えたこと その1

「くじらです。」

授業では「けさのことです。」など、他の例をあげて説明したのだが、これからのお話は4時間目のことだと説明して、最後に、この話は「いつのことだったのか」ということから「4時間目のこと」だったのだと確認するとよかったと思う。

4時間目のこと、いつものように体操をしている。すると、今まで空にはなかったのに、突然大きなくじらが現れた。それも真っ白い雲の鯨。上を向く体操をしていて気づいたのか、誰かが最初に見つけたのか。子どもたちの目は空に向いている。真っ白い鯨。その背景は、白を際立たせる真っ青な空。それまでちらばっていた雲が集まって出来たのかもしれない。いずれにしろ、子どもたちが体操を始める前まではいなかったもの。「うわあ、くじらだ!」とか「でかい!」「まっしろだ!」とか、子どもたちのざわめき。ざわめきながらも体操は続く。

「くどくあらわれました。」の意味を考えると、現れる前の空と現れた後の空の違いをはっきりさせるとよかった。

「一、二、三、四。」

くじらも、たいそうをはじめました。

〈くむ〉

- T 「一、二、三、四」くじらもたいそうをはじめました。と言ったのは誰?
- ・ くじら。
  - ・ 違うよ。1年2組の子どもたちと先生。
- T くじらもたいそうをはじめました。くじらもだから、その前に?
- ・ 子どもたちや先生がしてる。
- T くじらの前に、先生や子どもたちが体操してるんだね。(また、体操を楽しんで。)
- T みんなが深呼吸すると?
- ・ くじらもする? くじらも伸びたり縮んだりする。
  - ・ ひれとか使ってやってんじゃない。
  - ・ まねっこしてる。
- T みんなが深呼吸するとくじらも伸びたり縮んだりするんだね。  
(↑先生にくじらになってもらい、体操を楽しんだ。)

■ 授業後に考えたこと その2

「一、二、三、四」は先生の号令。その号令で子どもたちは体操をする。体操をしながら、現れたくじらぐもを見ていると、なんとみんなと一緒にくじらも体操を始めた。みんなは体操をしながらくじらから目(心)を離さない。深呼吸を始めたら、大きな真っ白い雲のくじらが空を伸びたり(白い雲が広がる)縮んだり(白い雲がぐっと縮まる)それを繰り返して深呼吸をしている。子どもたちは、「うわあ、まねっこしてる」(おもしろいなあ)と体操をしている。

体操を終え、みんなが駆け足で運動場をまわると、みんなの頭上を白い、大きなくじらぐもが気持ちよさそうにまわる。「うわあ、またまねっこしてるよ」とか、子どもたちは空を見上げながら駆け足でまわっている。

先生が「生まれ」の合図をすると、子どもたちは止まる。空のくじらもやっ

ぱり止まる。「まわれ右」と先生が号令をかけると、子どもたちと一緒に空のくじらも、やつぱりまわれ右をする。大きいくじらぐもが動く様子、ぐるっと方向転換する様子を楽しんでイメージさせたものの。

■ 授業後に考えたこと その3

空に突然現れたくじら。空の上で子どもたちのまねをして楽しんでくじら。これまでのくじらの行為を受けてこの言葉「あのくじらは、きつと学校がすぎなんだね。」がある。この思いが、次の「大きな声で『おうい』とよびました。」につながるのだ。

「ここへおいでよう。」

みんながさそうと、

「ここへおいでよう。」

と、くじらぐももさそいました。

「よしきた。くものくじらにとびのろう。」

〈よしきた〉

T (誘った後に) さあ、みんなはどうした？

・ 「よし、きた。」と言った。

T みんなで読もう。(とても言いにくそうに読んでいる。)

T 「よしきた」というのはどういうことか分かるかな？

・ 「よしきた」というのは電車とか来た時「よしきた」という。

・ あと、友だちが来た。

T そういう時もあるかもしれないけど、違っの。

・ 行くぞ！ という気合い。

・ タイミングをあわせた時。

・ 風がきたとき、さあ行くぞと言うの。

T そういう時もあるね。これはオーケーということなの。

・ 合点した。

・ ためしてガッテン。

T 「よしきた」というのは、「分かった。」という時に使うの。「よしきた！」って。(先生気合い入ってる！)

T これを言ったのは？

・ くじら？

・ 先生も、男の子も、女の子も。

T (よしきた。くものくじらに、とびのろう。)を指名読み。はりきつたに続ける。)

■ 授業後に考えたこと その4

くじらは、学校が好きなんだと思ったからこそ、子どもたちは、くじらに「おうい」と声をかけた。高い空に向かつて、みんなで聞こえるように呼んだ。すると、なんと「おうい」と応えてくれた。子どもたちはうんと喜んだろう。応えてくれたくじらに、子どもたちはさらに「ここへおいでよう。」と、空のくじらに向かつて誘った。

くじらも、同じに「ここへおいでよう。」と誘う。誘われてますますうれしくなった子どもたちは「よしきた、くものくじらにとびのろう。」と決める。男の子も女の子も、雲のくじらに飛び乗ろうとはりきった。

■ 授業後に考えたこと その5

子どもたちは、雲のくじらに飛び乗ろうとはりきり、みんな手をつないで飛び乗ることにした。みんなは手をつなぎ、円い輪になると、「天までとどけ、一、二、三」とジャンプをした。でも、とんだのはやつと30センチぐらい。子どもたちの様子を見ていたくじらは、「もつと高く。もつと高く。」と応援した。くじらに応援された子どもたちは、今度はさつきよりも高く、50センチぐらいとべた。空のくじらにはまだまだとどかない。「もつと高く。もつと高く。」とくじらは応援した。応援されたみんなはもつとはりきって「天までとどけ、一、二、三」とジャンプをした。

その瞬間にいきなり風が吹いてきて、みんなを空へ吹き飛ばした。みんなが気がついた時には、先生と子どもたちは雲のくじらにのっていた。

風に吹き飛ばされ、雲のくじらにのった子どもたち。初めての体験。子ども

もたちが喜んだり驚いたりしている様子を思い浮ばせる。(でつかいくじらだ。気持ちいいよ。高いなあ。ふわふわだ。学校が小さく見える。校庭も小さいよ。遠くまで見えるよ。ぼくの家見えるよ。など)。

「おや、もうおひるだ。」

せんせいがうでどけいを見て、おどろくと、

「では、かえろう。」

と、くじらは、まわれみぎをしました。

しばらくいくと、がっこうのやねが、見えてきました。くじらぐもは、ジャンブルジムのうえに、みんなをおろしました。

〈しばらくいくと〉

T まわれ右をした時、学校は見えたかな。

・ まわれ右をした時には、学校からはなれているから見えない。

・ まわれ右をした時は空も高いし学校からすんごくはなれているから見えない。

・ くじらぐもつて、学校からずっと高くて、くじらは下を見れないから、見えない。

T 高いから見えないのかな？

・ 学校は見えにくい。

・ ちがう。

・ おれ違う。

・ 学校と反対の方向に行ってるから、学校はまだ見えてない。

・ しばらく行くと学校の屋根が見えてきたから、「見えてきた」だから遠くにはなれていたからね。近づいてきて、ちゃんと無事にみんなをジャンブルジムに下ろした。

T D君言ってくれたけど、文の中に証拠があるよ。見えてない証拠を言ってくれた。高いからじゃないよ。

・ しばらく行くとだから。

・ K君と同じ。

T しばらく行くと、どうなの？

・ 学校の屋根が見えてきた。

T しばらく行かないと学校は？

・ 見えなかった。

T 見えなかったということ。くじらぐものスピードで行くんだからさつきMちゃん言ってくれたように、くじらぐもはみんなを乗せて学校から離れていったんだね。だから、しばらく行くと学校が見えてきたんだね。かねは聞こえないね。

### ◎ サークルで話し合ったこと

・ こういう文には省略が多い。省略を埋める仕事想像につながってくる。

・ 「現れる」で、「いなかったのにでてくる」というのは良い。その次の部分は、いなかったのにくじらぐもが現れたというときに、いなかった空の状態を子どもたちは描いているのか。

・ 「一、二、三、四」というのは誰と聞いた後に「くじらぐも」とあって、次に進んでいるが、ここにも省略がある。子どもたちの体操の文が本当はある。この辺も「も」とあるからという理屈でみんなは納得したか。(鯨の動作の前には、子どもたちも必ずやっていったということをおさえた。)

・ 「くすると」と「も」を一緒に扱ったほうがいい。「くすると、く」は大事。子どもたちは先生の合図で体操するたびに、空を見ているんだろうな。あれ、また同じことをしている。だから、呼びかける。(ここは板書で子どもにしたことを下の段に書き、くじらがまねをしたことを矢印をつけ上の段に書いた。6回まねっこをしているんだと子どもが言ったのだが、授業の中で、体操するたびに空を見るなどのイメージは足りなかったと思う。)

・ 「よしきた。」は文脈の中で考えるのは難しいのだろう。

・ 5の場面で子どもたちが「さようなら。」と言ったところを、このさよならにどんな気持ちがいっているかと進めたが、「げんきよく」を大事に取り扱うといい。(げんきよく)をとり上げることで、うんと楽しんで満足したくじらを見つけたと思う。)